協力者・団体一覧（50 音順／敬称略）

渥美久子
阿部孝子
阿部泰子
阿部輝勝
阿部政代
安部ひろみ
石森くにえ
石森智子
石森とわ子
石森彦一
石森はるこ
石森二三男
大壁とわ子
大里正樹
大山龍顕
大平かねよ
大平仁
奥津佳奈子
奥津孝子
工藤えつこ
佐々木茂子
佐々木初子
万代寿一
平塚郁子
堀越千世
松川公子
松川信義
遊佐源太郎
遊佐なみ子
遊佐美枝
渡邊辰寿
渡邊幸敏

小牛田山神社
大金山陽山寺
大慈山崇徳寺
如意輪山観音寺

石巻市
表浜漁業協同組合 女性部
東北芸術工科大学
文化財保存修復研究センター

あとがき

平成 23（2011）年 3 月 11 日、私は東京で震災に遭遇した。震源地が三陸沖だと知り、まず頭に浮かんだのが牡鹿半島の人々だった。その年、何度か牡鹿半島に通い、震災前からお世話になってきた方々を訪ねるうちに、私たち筑波大学民俗学研究室ができることを考えた。民俗学の立場からの復興支援としては、文化財レスキューや民俗芸能の支援などがあり、既に様々な大学や研究機関などによって取り組みが行われていた。その中で、震災前の牡鹿半島を知る私たちができることは、半島の過去から現在・未来への繋がりに関わることだと考えた。

この調査研究は、筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻の大学院生を中心として進めてきた。以前から牡鹿半島と関わりを持っていた者だけではなく、震災後に初めて訪れた者、民俗学を学び始めたばかりの者など、それぞれの経験の違いによる意見を出し合い、牡鹿半島の暮らしを見直してみた。したがって本報告書は、各自の問題意識に基づいた自由な報告を集めた形式になっている。網羅的な資料集ではないが、今しか残せない事項が多く含まれている。実際の調査活動では、せっかく相談を受けても、力量不足によりお力になれないこともあった。それでも辛抱強くお付き合いいただき、私たちに多くのことを教えてくださった牡鹿地区の皆様に感謝申し上げたい。

（文責: 戸邉優美）